

西トップ寺院の建築調査

調査作業の方針 2007年1月に予備的調査をおこない、2008年1月には主として基壇下部の実測調査をおこなうとともに、次回以降の調査のための下準備をおこなった。調査は、西トップ寺院の建築的特徴を明確にすることと、崩壊しつつある現況を正確に記録することを主目的とし、具体的作業は以下のとおりとする。

- ・基壇および建物各層の平面図作成（レベル入）
- ・要所の断面図作成
- ・立面図の作成
- ・部材の積み方、納まり図の作成
- ・個々の部材の採寸
- ・個々の部材の仕様・破損状況の現況把握
- ・復元図作成

まず、平面図・断面図・立面図を作成し、図面上で個々の部材を特定できるようにした上で個々の部材の詳細調査をおこなう。詳細な実測・観察によって、現況を正確に把握するとともに、建築当初の状況を復元検討する。そして、個々の部材の仕様や納まり等の詳細調査を通して、建物の特徴および歴史的変遷（建造過程）が明らかになると考える。なお、図面や写真については、修復をおこなう場合の基本資料となりえる精度のものを作成する。

建物の概要 西トップ寺院は、ラテライトで結界された区画（もしくは低い基台）内に建築されている。東を正面とし、結界四隅のすぐ内側に結界石を配置し、結界内西寄りに南北に並ぶ3棟の建物とその東にテラス状の基壇が展開する。便宜上、中央部分の建物を中央祀堂、その南北の建物をそれぞれ南塔・北塔、中央祀堂東側に展開する基壇部分を仏教テラスと称する。中央祀堂および南・北塔は一連の基壇（以下、下成基壇）の上に立ち、この基壇がそのまま東に張り出して仏教テラスとなっている。下成基壇上に、中央祀堂はさら2段の基壇（以下、中成基壇・上成基壇）、南北塔は1段の基壇（以下、中成基壇）上に建物を構築する。また、中央祀堂東正面の中成基壇の前には、仏像を安置する区画（仏像台座）が設けられている。これら基壇を見る限り、部位によって様々な様式がみられ、施工精度もまちまちで、これら全てが一連の建造でないことを示している。

下成基壇を見る限りでも、中央祀堂部分と南塔は似通った様式とするが、北塔はその平面形状・仕様ともに異なっている。仏教テラスの東側約4分の3については中央祀堂とは異なった仕様としており、さらにその東の張り出し部も本体部と異なった仕様としている。中成基壇については、中央祀堂・南塔・北塔、すべてその仕様が異なっている。また、中央塔の中成基壇には南北両面に階段が設けられているが、南北両塔の中成基壇はその階段の前面に密着して設けられており、南北両塔はいかにも後世に付加した納まりを呈している。また、中央祀堂の中成・上成基壇の東面には現状では他面の階段にみられるような耳石はないものの、階段状のステップがつけられている。しかし、中央祀堂東面に設置されている仏像台座は、その正面を塞ぐように設置されており、当初からの計画であるかどうか疑問である。

以上のように、概観するだけでも、中央祀堂の建築後、仏像台座・南塔・北塔・仏教テラス・仏教テラス東張り出し部が随時増築されたと考えられる。さらに、中央祀堂上成基壇では、化粧砂岩石に隠れる内部のラテライトが一部露出し、そのラテライトに化粧線形が施されており、現在の中央祀堂の前身のラテライト化粧の建築物の存在の可能性も考えられる。今後、詳細な調査によってその建造過程を明確にしてゆく。

建物の現況 中央祀堂、南北両塔ともに、崩壊の危険性がある。中央祀堂の基壇部分は比較的安定しているが、上部構造が樹木の根によって大きく歪んでいる。いっぽう、南北両塔は中成基壇自体が大きく傾き危険な状況である。図1には、下成基壇中央祀堂西面中央延石面を基準とした下成基壇延石面のレベルを示した。中央祀堂については、全体的に入隅部分がやや高めで、出隅部分が下がり気味であるものの比較的安定しているが、東北隅部のみが大きく沈下している。北塔は、中央祀堂と同様に、東北隅部が大きく沈下しており、塔全体が東北方向に大きく傾斜していることから、このことがうかがえる。南塔では、大きな不同沈下はなく比較的安定しているが、上部構造は基壇内に食い込むように傾いている。仏教テラスは東に向かって全体的に下がっているが、これは不同沈下というよりは地形全体的なものであろう。中央祀堂と北塔の北東隅に大きな沈下がみられるものの、上部構造の崩壊状況に比べると、下成基壇は比較的

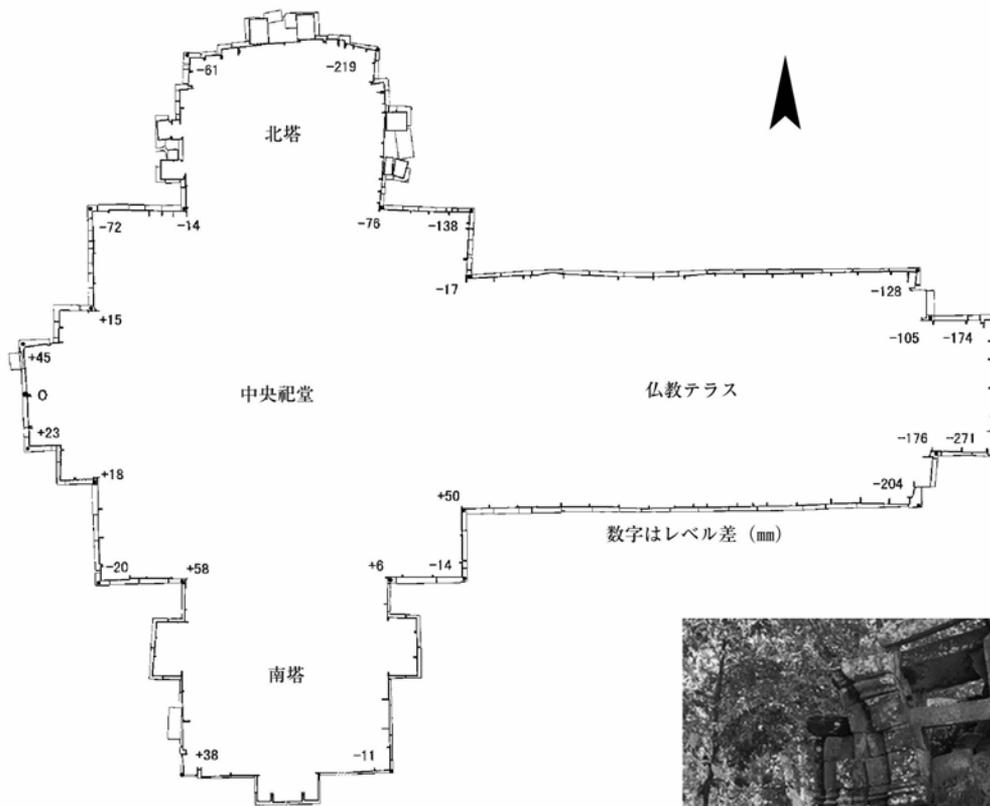


図31 下成基壇延石・地覆石平面図 1 : 250



図32 全景 (東から)

安定しているようにみえる。今後、詳細な実測調査をおこない、崩壊のメカニズムを検討する。

今後の調査 2008年度には、基本図の作成および実測・観察による基本データの収集を集中的におこない、図面作成とデータ整理をする。2009年度にはこれら基本データの収集・整理を進めながら、課題を踏まえた詳細な調査を実施する。2010年度には周辺類例調査をおこないながら、西トップ寺院の建築的特徴を明確にしてゆく予定である。最終的には、発掘調査成果の検討をもふまえ、西トップ寺院の歴史の変遷をあきらかにする。そして、寸法計画・石積技法・石加工技術等の技術的特徴を明確にした上で、様式・配置計画等についての特徴を把握し、アンコール遺跡群における西トップ寺院の位置付けを解明する予定である。

(島田敏男)



図33 上から、南塔・中央祀堂・北塔 (いずれも東から)